

日本医史学雑誌 第56巻 第2号

目 次

第111回 日本医史学会総会 演題目次

プログラム

会長講演

- 日韓越の医学と中国医書…………… 真柳 誠 151

特別講演

- 水戸藩の医学と医療…………… 鈴木 暎一 160

一般演題

- 1 日露戦争期の広島予備病院における活動
——日赤救護班の看護活動を中心として——
…………… 岡本 裕子, 坂村 八恵, 隅田 寛, 千田 武志 163
- 2 明治期の医師——近藤常次郎による看護管理体制の示唆——
…………… 上坂 良子 164
- 3 日本赤十字社における支部選出看護婦
——京都支部選出看護婦 高木ハルの事例をもとに——
…………… 川原由佳里, 鷹野 朋美, 山崎 裕二,
殿城 友紀, 高橋 朋子, 川嶋みどり 165
- 4 明治24年濃尾地震における東京慈恵医院の救護・看護活動
…………… 平尾真智子, 芳賀佐和子, 蝦名 總子 166
- 5 日本陸軍における看護卒と磨工卒の関係…………… 鈴木 紀子 167
- 6 満蒙開拓青少年義勇軍訓練生に対する医療と看護…………… 額賀せつ子 168
- 7 プランゲ文庫所蔵新聞記事にみられるGHQ看護課長オルトの
記者会見の分析 …………… 大石 杉乃 169
- 8 戦後沖縄の保健・医療行政
——その4 保健所の活動—— …………… 杉山 章子 170
- 9 韓国ジャーナルに載せられた補完代替医学関連研究の動向分析
…………… 李 太 亨, 金 南 一 171
- 10 近年の政治及び経済政策が我が国の医療に与えた影響
…………… 藤岡 彰, 藤岡 和美 172
- 11 心臓移植は医療として正しいか…………… 藤倉 一郎 173
- 12 医学研究における被験者保護の流れ…………… 関根 透, 島田 道子 174
- 13 超過死亡にみる戦前期日本(旧植民地を含む)における
“スペインかぜ”世界流行の影響 …………… 逢見 憲一, 丸井 英二 175
- 14 日本の結核史における第二次世界大戦とBCG研究について
…………… 渡部 幹夫 176

15	戦後占領期における性感染症 —— GHQ/SCAP 文書にみる梅毒の流行—— …………… 田中 誠二, 杉田 聡, 安藤 敬子, 丸井 英二	177
16	江戸時代の医学書にみる結核観の変遷……………	鈴木 則子 178
17	王室記録に見られる『東医宝鑑』関連記載の分析 ——正祖時代までの記録を中心として—— …………… 姜 棹 現, 車 雄 碩, 金 南 一	179
18	本草効能用語に関する研究……………	金 恩 瑕, 吳 龍 澤, 李 丙 旭 180
19	『東医宝鑑』湯液篇の本草分類に対する研究 ……………	吳 在 根, 金 容 辰 181
20	『郷薬集成方』から『東医宝鑑』にみられる朝鮮半島医学の変遷 ——本草を中心として—— ……………	朴 智 世 182
21	『大同類聚方(寮本・延喜本)』に見える古代朝鮮の国名と 関係のある薬方 ……………	後藤 志朗 183
22	「燕行使」「通信使」と明末清初における 東アジア医学知識の連動 ……………	陳 明 184
23	近代中国における西洋解剖学の初期的伝播について ……………	松本 秀土, 坂井 建雄 185
24	宋大仁が三木栄にあてた1通の手紙で得た励まし……………	郭 秀 梅 186
25	『脾胃論』に記載された述語の分類に関する研究 ……………	李 丙 旭, 金 明 姫, 金 恩 瑕 187
26	李東垣の陰火論に対する研究……………	方 正 均 188
27	王清任の補気観——李東垣との比較から——……………	越智 秀一 189
28	江戸時代の考証学と折衷派に対する考察……………	殷 哲 玫 190
29	ベトナム近現代史における「伝統医学」……………	小田 なら 191
30	釈迦時代における出家僧の健康管理について……………	杉田 暉道 192
31	治癒神としてのカナヤマサマ ——八丈島での事例から—— ……………	土谷 久 193
32	中山城山の『黄庭内景経略註』について……………	坂出 祥伸 194
33	常陸の郷医・山田甫庵の事蹟 ——《百腹図説》の成立と伝播に関する考察—— ……………	長野 仁 195
34	清代医案における外感病と内傷病の舌象特徴の研究 ……………	梁 嶸, 王 盛 花, 李 燕, 王 召 平, 侯 楊 方, 官 君 達, 李 方 玲 196
35	日本における舌診思想の一考察(その1) ……………	西卷 明彦 197
36	20世紀初期韓医学の診療録に見る傷寒診療例の考察 ……………	車 雄 碩 198
37	江戸期在村医の製売薬 ——岡山県邑久郡中島家の関連文書の分析から—— ……………	梶谷 真司 199
38	安藤昌益学派の『真斎漫筆』にみる乱神病……………	岡田 靖雄 200

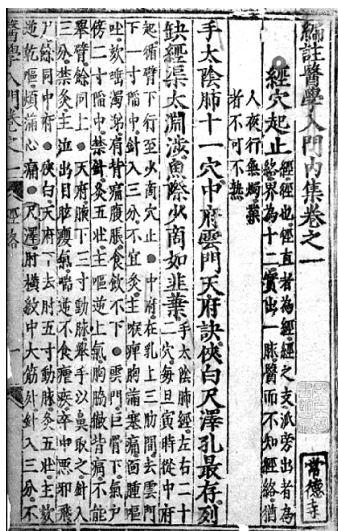
39	奄美諸島の私宅監置と医介輔問題	金川 英雄, 堀 みゆき	201
40	小林靖彦の資料研究 ——ミクロの視点から見た日本の精神医療の歴史——	小林ひとみ	202
41	日本の近代外科黎明期における胃癌手術	佐藤 裕	203
42	県立福岡病院外科部における3年間(明治23年~25年)の 手術について	小林 晶	204
43	“養育院”成立における第5代東京府知事・大久保一翁の役割	稲松 孝思	205
44	近代日本の「防疫の制度化」においてコレラ流行は 「決定実験」となりえたか?	大山 卓昭	206
45	中島友玄の閑谷并医学館入学諸事留 ——明治初年の医家継承事情——	中島 洋一	207
46	浅田宗伯門人, 藤田謙造の学統	渡部 浩二, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	208
47	「医業」とは別のいとなみで ——橋田邦彦の「医行」論——	勝井 恵子	209
48	ハンセン病医学者・菅井竹吉の履歴, 特に東京市養育院時代の事績について	平井雄一郎	210
49	中国伝統医学と道教(第30回「医道」と「医家」)	吉本 昭治	211
50	茶と『神農本草経』について	岩間眞知子	212
51	五味説新考	猪飼 祥夫	213
52	傷寒論における「堅」と「鞭」と「鞣」	松岡 尚則, 栗林 秀樹, 別府 正志, 山口 秀俊, 中田 英之, 岩井 祐泉 牧角 和宏	214
53	毒——中日の医家で解釈が異なる病因術語	朱 建 平	215
54	龔廷賢方の清代医学文献における引用 ——日中医学の相違——	星野 卓之, 天野 陽介, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	216
55	耳聾について	吉岡 広記	217
56	肝臓にたいする認識の変遷 ——江戸から明治期にかけて——	大道寺慶子	218
57	綴合する4組の敦煌医薬卷子断簡について	沈 澍 農	219
58	「千金方」の名称をめぐる	矢数 芳英, 小曾戸 洋	220
59	『難経集注』について	宮川 浩也, 天野 陽介, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	221
60	柳宗元疾病攷	小高 修司	222
61	損至について	中川 俊之	223
62	『女科證治準繩』における鍼灸条文の典拠について	田中利江子	224
63	『外科理例』の鍼灸	上田 善信	225

64	『素問』『靈樞』における三焦概念の変遷……………	林 孝信	226
65	『僧深方』——『医心方』『外台秘要方』からの輯佚……………	多田 伊織	227
66	『医心方』に記載されている九虫に関する考究……………	牧 純	228
67	『殿暦』の鍼灸……………	寺川 華奈	229
68	『文正草子』の中の身体に関わる表現……………	計良 吉則	230
69	『鍼灸要法』について……………	宮川 隆弘	231
70	『一原三岐』について……………	鶴田 泰平	232
71	『鍼灸施治姓名録』について ——幕末の岡山県邑久郡周辺における鍼灸記録—— ……………	松村 紀明, 中島 洋一	233
72	京都府立盲学校資料室所蔵の『杉山真伝流』関連 写本類について……………	大浦 宏勝, 市川 友理	234
73	『家伝預葉集』の研究……………	鈴木 達彦, 砥上 京子, 森田 まゆ	235
74	青山道醇の『鍼灸備要』について……………	木場由衣登	236
75	木内政章(原南陽・小野蘭山門人)の事蹟と学績……………	町 泉寿郎	237
76	田中彌性園収蔵小野蘭山書簡およびその学統について……………	田中 祐尾	238
77	『体雅』諸本10種の関係について……………	浦山 きか	239
78	国立国会図書館所蔵『体雅』について……………	竹内 尚	240
79	東博所蔵の江戸医学館旧蔵書に関する検討 ……………	天野 陽介, 小曾戸 洋, 町 泉寿郎, 星野 卓之	241
80	江戸医学館蔵書集散の顛末 ……………	小曾戸 洋, 天野 陽介, 町 泉寿郎, 星野 卓之	242
81	解剖学の脱動物化 ——ガレノス解剖学の伝承と解剖学の変化——……………	澤井 直	243
82	クイーン・スクエア・ホスピタルの創設と発展……………	柳澤 波香	244
83	『百科全書医学篇』(明治7年文部省刊)と Chambersの原本(1857年)について……………	樋口 輝雄	245
84	眼科顕微鏡開発史 ——カールツァイス社の開発経過について——……………	園田 真也	246
85	緒方洪庵と種痘——その人脈を探る——……………	古西 義麿	247
86	郡上藩醫學校と種痘・施療事業……………	森永 正文	248
87	ポンペ・ファン・メールデルフォールトの日本における 西洋医学教育についての報告 ……………	相川 忠臣, ハルメン・ボイケルス, 酒井 シヅ, 山之内 外一	249
88	ポンペ・ファン・メールデルフォールトと牛痘種痘(第1報) ……………	松木 明知	250
89	司馬凌海——日本人執刀最初の病理解剖……………	高橋 昭	251
90	森 林太郎(森 鷗外)と解剖学講義について……………	島田 和幸	252

91	本木良意識『阿蘭陀経路筋脈臟腑図解』をめぐる考察 成瀬 勝俊, 片山 昇, 片山誠二郎	253
92	金澤大学所蔵キンストレーキの解組と 新たに確認されたオランダ語・日本語ラベル	月澤美代子 254
93	医術開業後期試験問題と済生学舎の臨床技能教育 志村 俊郎, 唐澤 信安, 殿崎 正明, 寺本 明	255
94	磯部檢三と加藤時次郎について 唐澤 信安, 志村 俊郎, 殿崎 正明	256
95	塩田広重学長と「磯部檢三日記」 殿崎 正明, 唐澤 信安, 志村 俊郎	257
96	医学校数推移の基礎資料としての文部省年報の統計について 坂井 建雄	258
誌上発表		
97	宋代の漢籍に見える『内経』経文..... 橋本 典子	259
98	『鍼法秘粹』について	岩田源太郎 260
99	饗庭東庵『首書十四経』の龍頭について..... 山崎 陽子	261
100	近年の北海道に於ける明治女医史研究と新知見..... 宮下 舜一	262
The 111th General Meeting of the Japan Society of Medical History		263
医史学関係文献目録 (平成20年, 2008年)..... 順天堂大学医史学研究室編		269
投稿規定.....		323
編集後記.....		325

《本号の表紙絵》

『医学入門』の各国版



左図の明・李梴『編註』医学入門』首1巻・内集1～3巻・外集4～7巻（1575序刊）は、基礎から臨床各科まで網羅した医学全書。キーワードを主に歌賦で大書し、以下に大量の説明を小字で記す独特の形式で記述され、明代に5回刊行された。日本では江戸初期の古活字版など17世紀だけで8版を重ね、相当に流行した。これには曲直瀬正純の門下、古林見宜の推奨もあったらしい。1709年に岡本一抱『医学入門診解』まで刊行されたほどで、当書には見宜堂5代の古林正禎が序を寄せている。韓国では17世紀以降で6版を数え、許浚は『東医宝鑑』（1613初版）に2700回以上も引用するので、影響の大きさが分かる。『東医宝鑑』の記述形式や内景篇・外景篇などの編纂形式も『医学入門』の発展形といえ、純祖31年（1831）には医家試験のテキストに指定された。ベトナムでも阮朝19世紀の2版

が現存する。黎有卓『医宗心領』（1770～80成）ほかの書に多数引用されるなどの諸状況から推すと、黎朝の17世紀以降にもベトナム版があった可能性を考えていい。

表紙絵の左側はベトナム阮朝の嗣徳12年（1859）ハノイ成文堂刊本で、ベトナム国家図書館所蔵。中央は矢数圭堂氏所蔵の寛永19年（1642）村上平楽寺刊本で、行数・字詰め等の書式は上掲の明1575年序刊本（国家図書館〔台北〕蔵本）と一致し、ベトナム版もほぼ一致する。右側は1820年の朝鮮内医院刊本で国家図書館〔台北〕所蔵。このように明代16世紀の本書が漢字文化圏の日韓越で17～19世紀にかけて復刻され、相当の影響を与えていたことは実に興味深い共通現象と言わねばならない。

（真柳 誠）